

2010年2月25日

首都圏 MM ユーザーズミーティング開く GE ヘルスケア・ジャパン

GE ヘルスケア・ジャパン(株)(東京都日野市旭が丘 4-7-127)は2月2日、東京都中央区の聖路加国際病院において『第11回 Tokyo GE Mammography User's Meeting』を開き、同社製デジタルマンモグラフィ「Senographe(セノグラフ)」シリーズのユーザー(放射線技師等)が参集し、情報交換や交流を図った。

デジタルマンモグラフィは1999年にGEが世界で初めて販売して以来、既に10年以上経過するが、その撮影手法や画像読影は、技師や読影医の経験や技量に依存する面が大きいのが現状である。そこで同社ではマンモグラフィのユーザーを対象にしたユーザーズミーティングを全国各地で開催している。

中でも首都圏のユーザーを対象にした「Tokyo GE Mammography User's Meeting」は規模も最大で、かつ最多の開催回数を誇るなど、マンモグラフィの撮影技術ならびに検診時の読影精度の向上に大きく貢献している。

当日は、日本医科大学付属病院の小林宏之氏が「今年でマンモグラフィが導入されてから10年になります。その間にも技術革新が続き、最近ではDBT(デジタル・ブレスト・トモシンセシス)が登場し、さらに技術革新が進んでいます。今日この場で情報を共有して勉強していきたいと思います」と開会挨拶を行った。

= 病院新聞 =